

シリーズ

宗 教 学 再 考

全9巻

◆編集委員◆

島 蘭 進、鶴岡賀雄、山中 弘、松村一男、深澤英隆
山崎 亮、奥山倫明、杉村靖彦、久保田 浩、江川純一

◆企画協力◆

南山宗教文化研究所

これからの「宗教」のために――

近代以降、「宗教」という言葉を用いて、我々はいかに思考してきたのか。

古今東西の宗教現象をつかもうとしたこの営みを、
21世紀の今、我々はどのように評価すべきか。

英、仏、独、蘭の各言語圏の重要文献を本邦初訳、
および別々に翻訳されていたものを一冊に新訳で収録し、
「宗教」をめぐる基礎概念の始まりから、
「宗教」という言葉そのものの問い直しに至るまでを見渡し、
宗教学という枠組を今再考する、画期的な一大叢書。

一九世紀の最後の四半世紀から二〇世紀前半にかけて、「宗教」を近代的な学知の枠組みで捉えようとする試みが花開いていく。この〈シリーズ 宗教学再考〉では、まずこの時期の重要な著作だが、これまで日本語では読みにくかった著作を取り上げている。先行のシリーズ〈宗教学名著選〉とあわせて、宗教学の基礎が整えられていく時期の重要著作が見渡せることになる。

「宗教現象学」や「宗教学人類学」の重要な著作、そしてフランス「社会学年報」の著作群は宗教学の歴史を振り返る上で欠かせないものである。社会学の基礎づけに宗教論が不可欠だったデュルケムやウエーバーらの宗教論、宗教についての考察と無意識についての理論が切り離せないものだったフロイトやユングの理論、宗教学という分野に堅固な枠組みを与えようとしたオットーやエリアーデらの仕事を深く理解しようとするとき、これらの著作の理解が大いに役立つことだろう。

〈シリーズ 宗教学再考〉では、さらにそれに引き継ぐ時期、一九七〇年代ぐらいまでの時期の著作で、すでに古典としての地位が定まっている著作を取り上げている。二〇世紀末以降、宗教学の基礎理論に不可欠のものとなった「宗教」概念論の先駆的な業績をまとめたキャンントウエル・スミス、宗教現象学の手法を取り入れながら現代哲学と宗教論を媒介しようとしたポール・リクール、広い視野に立った宗教学史をまとめたその後の宗教学史の基盤を固めたエリック・シャープの著作を収める。

二二世紀の現代世界においても宗教はグローバル社会のゆくえに関わる重要なプレーヤーである。また、現代世界に生きる個人にとつても、自らの生き方を振り返り、倫理観や死生観を確かめようとするとき、宗教について考え直すことは大きな意義をもち続けている。

そして、宗教についての奥深い理解を得ようとするとき、宗教学の歴史を振り返り、すぐれた先人たちの業績に学ぶことが大いに助けとなる。この〈シリーズ 宗教学再考〉がそのような読者たちの手に届くことを願っている。



第1巻 マナ・タブー・供犠 —— 英国初期人類学宗教論集

- 監修▼江川純一、山崎亮 ●訳▼佐々木雄大、比留間亮平、藤井修平、金瞬、徳田安津樹
- ロバートソン・スミス「供犠」〔『エンスイクロペディア・ブリタニカ』の項目、一八八六年〕
- フレイザー「タブー」「トーテミズム」〔『エンスイクロペディア・ブリタニカ』の項目、一八八八年〕
- コドリントン「メラネシア人」〔抄訳、第七章「宗教」、第二章「呪術」、一八九二年〕
- マレット『宗教への関心』〔第二版全訳、一九一四年〕

一九世紀半ばから二〇世紀初頭にかけての英国では、進化論的発想に基づき宗教の起源が盛んに議論された。その中で扱われた「マナ」、「タブー」、「供犠」、「トーテミズム」、「呪術」等の諸概念の再考を期して、文献に基づく異文化研究（初期人類学）における最重要宗教論を集成する。



アンドルー・ラング

ISBN978-4-336-07112-5

第2巻 宗教学と神話学

- 編訳・監修▼山中弘、江川純一 ●訳▼藤田祐、清水俊毅、江川純一
- 「宗教の生成」〔第三版全訳、一九〇九年〕 ●「神話学」〔『エンスイクロペディア・ブリタニカ』の項目、一九一一年〕

宗教学者ラング（Lang, 1864）の姿を初めて伝える待望の論集。我が国においてこれまでラングは、夏目漱石が絶賛した文筆家として、また川端康成が評価した童話全集の編者として知られてきた。だが彼の仕事の中心は、神話研究と最高存在研究にある。後の世代に大きな影響を与えた二つの論考を収録する。

E・デュルケーム、H・ユベール、M・モース

ISBN978-4-336-07113-2

第3巻 社会学年報学派宗教論集1

- 編訳・監修▼山崎亮、江川純一
- 第一部『宗教学の基本形態』への道程
- デュルケームとモース「分類の若干の原始的形態について」〔一九〇三年〕
- ユベール「ソーセイ『宗教史教本』仏訳への序論」〔一九〇四年〕
- モース「祈禱1…諸起源」〔一九〇九年〕 ●デュルケーム「価値判断と実在判断」〔一九一一年〕 他



H・ユベール、M・モース、R・エルツ

ISBN978-4-336-07114-9

第4巻 社会学年報学派宗教論集2

- 編訳・監修▼山崎亮、江川純一
- 第三部ユベールとモース『宗教史論集』
- ユベールとモース『宗教史論集』〔「序論」「供犠の本質と機能に関する試論」等、一九〇九年〕
- エルツ『死の集合表象研究試論』〔一九〇七年〕、「右手の優越」〔一九〇九年〕 他



一八九八年創刊の『社会学年報』に結集した、E・デュルケーム（1858-1917）、H・ユベール（1872-1927）、M・モース（1872-1950）、R・エルツ（1881-1916）の宗教論は、宗教学のみならず社会学や人類学の分野にも大きな影響を与えたが、従来、個別にしか取り上げられなかった。本書は、彼らの宗教論が、一定の枠組みを共有して相互に影響し合いながら形成されていった過程を辿る、他に類を見ない画期的論集である。論集1はデュルケーム『宗教学の基本形態』に結実する共同作業を浮き彫りにし、論集2ではモースら三人の独自性に焦点を合わせて、供犠、呪術、死等のテーマを取り上げる。

第5巻 宗教現象学の誕生

●編訳・監修▼木村敏明、久保田浩 ●訳▼シュルター智子、葉科智恵

第一部「宗教史」から「宗教学」へ——比較と体系化の視点

●コルネリス・P・ティール『古代宗教史——アレキサンダー大王まで 第一巻』（一九三三年）

●ナータン・ゼーデルブロム「聖性——総論および未開社会」（一九三三年）他

第二部「宗教現象学」の提唱——方法論の模索

●ピエール・D・シャントピード・ドラ・ソーセイ『宗教史教本 第一巻』（第二版、一八八七年）

●ヘラルドユス・ファン・デル・レーウ『宗教の現象学』（一九三三年）他

第三部「宗教現象学」の展開——歴史的宗教現象の解明

●ルドルフ・オットー『超世界的なるものの感情（ヌーメン感覚）』（一九三二年）

●ヨアヒム・ヴァツハ『宗教的人間理解の諸類型

——東洋と西洋の宗教哲学的思想における人間論の比較』（一九三三年）他

人類にとって「宗教」は一体いかなる意味をもつか。植民地主義末期から二つの世界大戦までの激動するヨーロッパで高まったこの知的関心に答えようとしたのが「宗教現象学」であった。その誕生の経緯と構想の概要を本邦初訳の論考の数々によって描き出す。



ヴィルヘルム・シュミット

第6巻 神観念の起源

●訳▼久松英二

民族学者ヴィルヘルム・シュミット（1868-1934）の代表作全一二巻のうち、一九一二年に刊行された第一巻の抄訳。「文化圈説」を踏まえ、原始的文化段階で多神教以前に唯一の神の観念が存在したという「原始一神教説」を文化史的方法で立証しようとした古典的名著。同説は過去のものとなったが、その文化史的観点は民族学に影響を与えた。

ポール・リクール

第7巻 有限性と罪責性——「過ちやすき人間」／「悪のシンボリズム」

●訳▼杉村靖彦

現代フランス哲学の巨人にして解釈学的哲学の泰斗たるポール・リクール（1913-2005）の原点となる二巻本著作の全訳。人間の「過ちやすさ」を精緻に解明する哲学的反省が、悪の経験を表現する豊穡で多彩な諸宗教の象徴言語と接続する。今日の新たな宗教哲学のための試金石となる記念碑的著作。

ウィルフレッド・キヤントウェル・スミス

第8巻 宗教の意味と終極

●訳▼保呂篤彦、山田庄太郎



イスラーム研究でも著名な比較宗教学者ウィルフレッド・キヤントウェル・スミス（1916-2000）の名著。「宗教」概念の形成過程を辿り、現代におけるその限界を指摘。これに代えて「累積的伝統」と「信仰」の二概念を使用すべきとする。反本質主義の宗教研究に途を拓き、多方面に影響を与えた現代の古典。

第9巻 比較宗教学——ひとつの歴史／物語

●監修▼久保田浩、江川純一 ●訳▼シュルーター智子、藁科智恵、渡辺頼陽、小藤朋保

比較宗教学の歴史を描いた画期的な一冊。この学問分野の成立経緯を、西洋各地の社会、文化、宗教状況との関連で描き出し、二〇世紀前半の知的状況に光を当てる。既刊シリーズ《宗教学名著選》と本シリーズで扱われる著作が登場した文脈とその意義について考えるための書。

編集委員

島蘭 進 (しまその・すすむ)
東京大学名誉教授。主著に『宗教学の名著 30』（筑摩書房、2008年）。

鶴岡賀雄 (つるおか・よしお)
東京大学名誉教授。主著に『十字架のヨハネ研究』（創文社、2000年）。

山中 弘 (やまなか・ひろし)
筑波大学特命教授・名誉教授。主著に『イギリス・メソディズム研究』（ヨルダン社、1990年）。

松村一男 (まつむら・かずお)
和光大学表現学部教授。主著に『神話思考』I-III（言叢社、2010年、2014年、2021年近刊）。

深澤英隆 (ふかさわ・ひでたか)
一橋大学名誉教授。主著に『啓蒙と靈性』（岩波書店、2006年）。

山崎 亮 (やまざき・まこと)
島根大学人間科学部教授。主著に『デュルケム宗教学思想の研究』（未来社、2001年）。

奥山倫明 (おくやま・みちあき)
東洋英和女学院大学人間科学部教授。主著に『エリアーデ宗教学の展開——比較・歴史・解釈』（刀水書房、2000年）。

杉村靖彦 (すぎむら・やすひこ)
京都大学大学院文学研究科教授。主著に『ポール・リクルの思想——意味の探索』（創文社、1998年）。

久保田 浩 (くぼた・ひろし)
明治学院大学国際学部教授。主著に『*Religionswissenschaftliche Religiosität und Religionsgründung*』, Frankfurt am Main 2003.

江川純一 (えがわ・じゅんいち)
明治学院大学国際学部付属研究所研究員。主著に『イタリア宗教学の誕生——ベッタッツォーニの宗教思想とその歴史的背景』（勤草書房、2015年）。

◆好評の既刊シリーズ

宗教学名著選 【全6巻】

一九世紀後半～二〇世紀半ばの「近代的宗教概念」を成立させた最重要文献

第1巻

ミルチャ・エリアーデ
アルカイック宗教論集

ルーマニア・オーストラリア・南アメリカ

●監修▼奥山倫明 ●訳▼飯嶋秀治、奥山史亮、藤井修平、小藤朋保

ISBN978-4-336-05688-7 本体五六〇〇円＋税

第2巻

フリードリヒ・マックス・ミュラー
比較宗教学の誕生

宗教・神話・仏教

●監修▼松村一男、下田正弘 ●訳▼山田仁史、久保田浩、日野慧蓮
ISBN978-4-336-05689-4 本体六八〇〇円＋税

第3巻

ラッファエーレ・ベッタッツォーニ
神の全知——宗教学論集

●監修▼鶴岡賀雄 ●訳▼江川純一 ISBN978-4-336-05690-0 近刊

第4巻

フリードリヒ・ハイラー
祈り

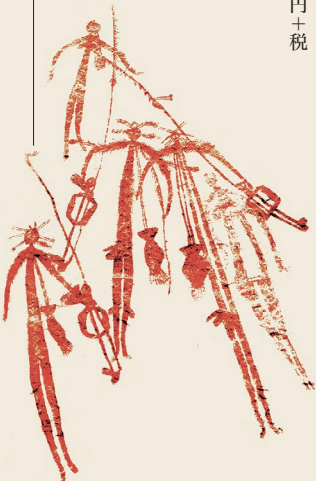
●監修▼深澤英隆 ●訳▼丸山聖大、宮嶋俊一

ISBN978-4-336-05691-7 本体六五〇〇円＋税

第5巻 第6巻

エドワード・バーネット・タイラー
原始文化 上・下

●監修▼松村一男 ●訳▼奥山倫明、奥山史亮、長谷千代子、堀雅彦
ISBN978-4-336-05692-4 ISBN978-4-336-05742-6
各本体六六〇〇円＋税



19世紀
起源＝本質の宗教論

マックス・ミュラー
Friedrich Max Müller, 1823-1900
「ナチュリズム」「比較神話学」

英国初期人類学者たち

タイラー
Edward Burnett Tylor
1832-1917
「アニミズム」

フレイザー
James George Frazer
1854-1941
「呪術」「タブー」

ラング
Andrew Lang
1844-1912
「最高存在」

コドリントン
Robert Henry Codrington
1830-1922
「マナ」

マレット
Robert Ranulph Marett
1866-1943
「プレアニミズム」

ロバートソン・スミス
William Robertson Smith
1846-1894
「トーテミズム」「供犠」

19世紀末～20世紀前半
脱宗教進化論と
総合的宗教論の模索

ドイツ・オランダの【宗教現象学者】たち

ティーレ
Cornelis Petrus Tiele
1830-1902
「比較宗教史」

ファン・デル・レーウ
Gerardus van der Leeuw
1890-1950
「宗教現象学」

ゼーデルブロム
Nathan Söderblom
1866-1931
「聖性」

メンシング
Gustav Mensching
1901-1978
「宗教類型論」

ヴァッハ
Joachim Wach
1898-1955
「体系的宗教学」

シャントピー・ド・ラ・ソーセイ
P.D. Chantepie de La Saussaye
1848-1920
「宗教史教本」

オットー
Rudolf Otto
1869-1937
「アミノーゼ」

ハイラー
Friedrich Heiler
1862-1967
「祈り」

W・シュミット
Wilhelm Schmitd
1868-1954
「原始一神教説」

ペッタッツォーニ
Raffaele Pettazzoni
1883-1959
「歴史的生成物としての宗教」

キャントウェル・スミス
Wilfred Cantwell Smith
1916-2000
「【宗教】概念の再考」

リクール
Paul Ricœur
1913-2005
「解釈学的宗教哲学」

エリアーデ
Mircea Eliade
1907-1986
「ヒエロファニー」

シャープ
Eric J. Sharpe
1933-2000
「学問史の試み」

フランスの「社会学 年報学派」

デュルケーム
Émile Durkheim
1858-1917
「社会の生成と宗教」

モース
Marcel Mauss
1872-1950
「供犠」「呪術」

ユベール
Henri Hubert
1872-1927
「宗教史」

エルツ
Robert Hertz
1881-1915
「死の社会性」

■ <シリーズ 宗教学再考>の著者
■ <宗教学名著選>の著者
矢印は影響・批判的継承をあらわす。

シリーズ

宗教学再考【全9巻】

◎体裁：A5判上製カバー装

◎装丁：山田英春

◎各巻予価：本体6000円〜7000円＋税

第1回配本

第8巻

ウィルフレッド・キャントウエル・スミス

宗教の意味と終極

◎訳▼保呂篤彦、山田庄太郎

ISBN978-4-336-07118-7

二〇二一年三月刊行予定

【本シリーズの特色】

◎21世紀の宗教現象を観察する際の手掛かりとなる

英、仏、独、蘭の各言語圏の二八八〇年代から

一九八〇年代までの最重要文献を収録。

◎一部を除き本邦初訳。また新訳。

◎各巻に、収録文献をより詳しく理解するための「解題」、

さらに歴史的背景及び現代的意義を明らかにする「解説」を収録。

◎文化人類学、民俗学、神学、仏教学、イスラーム学、思想史、哲学、

文学、表象文化論、芸術などの諸分野を射程に収める内容。

◎各巻に索引を付す。



国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 Tel.03-5970-7421 Fax.03-5970-7427

<https://www.kokusho.co.jp> e-mail: info@kokusho.co.jp

帖合・書店印

申込書

宗教学再考【全9巻】の定期購読を予約します。

お名前

.....

ご住所

.....

お電話番号

.....

※必要事項をご記入の上、書店にてお申込みください。